

2022年8月1日

## ライナープレート設計・施工マニュアルの 一部改訂のお知らせ（続報）

コルゲート・ライナー技術協会  
会長 阿部 幸夫



### 改訂経緯

2019年8月27日付けのライナープレート設計・施工マニュアルの一部改訂にて、ボルト接合以外の接合の検討ができるように必要性能についてお知らせいたしました。このたび、新たに性能を確認する試験方法を追加規定致しましたのでご報告致します。

### 改訂箇所（2019年8月27日付けライナープレート設計・施工マニュアル一部改訂箇所）

#### ・改訂前

『ライナープレートおよび補強リングを介してライナープレートどうしを連結する場合は、表 1.1 に示すボルトを使用することを原則とする。なお、表 1.1 に示すボルト以外の連結方法を A フランジ継手部に採用する場合には、連結部のせん断抵抗に起因する曲げモーメントの伝達性能が、ボルト締結の場合と同等またはそれ以上であることを確認する必要がある。しかし、その伝達性能がボルト締結の場合と比較して劣る場合には、試験などによって伝達性能を十分に把握し、その結果をライナープレートの設計に的確に反映させる必要がある。』

#### ・改訂後

『ライナープレートおよび補強リングを介してライナープレートどうしを連結する場合は、表 1.1 に示すボルトを使用することを原則とする。表 1.1 に示すボルト以外の連結方法を継手部に採用する場合には、【別紙】に示す継手強度試験方法に準じて試験を行い、連結部のせん断抵抗に起因する曲げモーメントの伝達性能が、ボルト締結の場合と同等またはそれ以上であることを確認する必要がある。しかし、その伝達性能がボルト締結の場合と比較して劣る場合には、伝達性能を十分に把握し、その結果をライナープレートの設計に的確に反映させる必要がある。』

以上